

令和6年度現況調査結果概要

1 調査対象

以下の施設基準を満たす指定医療機関（令和6（2024）年8月1日現在）

指定医療機関	調査対象数	回答数	回収率(%)
在宅療養支援病院、在宅療養支援診療所	168	105	62.5
在宅療養後方支援病院	6	5	83.3
在宅療養支援歯科病院、在宅療養支援歯科診療所	71	47	66.1
機能強化型訪問看護事業所	19	17	89.4
在宅薬学総合体制加算を届け出ている薬局	363	283	77.9
合 計	627	457	72.8

2 調査方法

Web（Web での回答が難しい場合は、紙の調査表による回答が可能）

※回答者 457 のうち Web 回答は 454（99.3%）だった。

3 調査期間

令和6（2024）年10月28日～11月29日

4 概要

(1) 在宅療養支援病院、在宅療養支援診療所

- ・「不在時等の診療支援体制の有無」について、有と回答した医療機関数は71（67.6%）であり、そのうち「同一法人の医療機関の医師との連携」と回答した医療機関が32、「近隣の医師同士での連携」と回答した医療機関が32であった。
- ・「緊急入院先の確保状況」について、有と回答した医療機関数は79（75.2%）であった。
- ・「対応可能な患者（複数選択可）」について、認知症患者に対応可能な医療機関が90（85.7%）で最も多く、次いでがん患者が84（80%）であった。一方、医療的ケア児に対応できる医療機関数は19（18%）、精神疾患患者は29（27.6%）であった。なお、「いずれも対応不可」と回答した医療機関数は8（7.6%）であった。

(2) 在宅療養後方支援病院

- ・回答のあった5医療機関の入院希望患者数の合計は209人で、そのうち117人（56%）が実際に受け入れられた。

(3) 在宅療養支援歯科病院、在宅療養支援歯科診療所

- ・「不在時等の診療支援体制の有無」について、有と回答した医療機関数は11（23.4%）であった。
- ・「対応可能な患者（複数選択可）」について、認知症患者に対応可能な医療機関が38（80.8%）で最も多く、次いでがん患者が34（72.3%）であった。

(4) 機能強化型訪問看護事業所

- ・「対応可能な患者（複数選択可）」について、医療的ケア児、精神疾患患者、がん患者、障害者、認知症患者のいずれも対応可能と回答した事業所数は 13（76.4%）であった。

(5) 在宅薬学総合体制加算を届け出ている薬局

- ・「対応可能な患者（複数選択可）」について、認知症患者に対応可能な薬局数は 250（88.3%）で最も多く、次いで障害者で 215（75.9%）であった。
- ・医療的ケア児、精神疾患患者、がん患者、障害者、認知症患者のいずれにも対応可能な薬局数は 137（48.4%）で、いずれも対応不可と回答した薬局数は 22（7.7%）であった。